

## 科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 30 年 6 月 13 日現在

機関番号：32686

研究種目：基盤研究(A) (海外学術調査)

研究期間：2014～2017

課題番号：26257004

研究課題名(和文)新・複合社会論：湾岸諸国の移民に焦点を当てたエスニック集団間関係の研究

研究課題名(英文)Neo-Plural Society: Research on Ethnic Group Relations with a Focus on Expatriate Workers in the Arab Gulf States

研究代表者

石井 正子 (ISHII, Masako)

立教大学・異文化コミュニケーション学部・教授

研究者番号：40353453

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 22,300,000円

研究成果の概要(和文)：石油輸出収入と投資によって急速な経済発展を続ける湾岸諸国(アラブ首長国連邦、オマーン、カタール、クウェート、サウジアラビア、バハレーン)は、今やアメリカ、EUに次ぐ世界第3の移民受け入れ地域となり、その一部では移民人口が国民人口を上回る。しかし湾岸諸国では移民の流入に起因する文化摩擦や移民排斥運動、民族紛争は表面的には発生していない。アジア地域からの出稼ぎは40年以上継続されている「常態」となっている。本研究は、受け入れ国の国民と移民が積極的に社会的関係を築かず、主に経済的関係を構築する湾岸諸国の社会経済システムを「新・複合社会」と概念化して捉え、そのシステムの解明を試みた。

研究成果の概要(英文)：Rapid economic development based on petroleum export income and investment have turned the Arab Gulf States (Bahrain, Kuwait, Oman, Qatar, Saudi Arabia, United Arab Emirates) into the third largest set of receiving countries of expatriate workers, after the United States of America and the European Union. Yet, in the Arab Gulf States there are seemingly few incidents of cultural friction, anti-immigration movements, or ethnic conflicts attributable to the immigrant flow. Migration from Asian countries has continued for more than forty years; it is now “normal.”

In this research project, we tried to conceptualize the situation in terms of a “neo-plural society,” a system in which both nationals of receiving countries and expatriate workers show little interest in building social contacts and instead form mostly economic relations.

研究分野：フィリピン地域研究

キーワード：湾岸アラブ諸国 移民労働者 インド フィリピン 複合社会

## 1. 研究開始当初の背景

湾岸諸国は移民労働者を大量に受け入れているが、受け入れ国の国民と移民は社会関係を積極的に構築しない。むしろ国民と多様な国籍の移民が分断状況を維持していることが特徴である。

湾岸諸国の移民労働者に関してのこれまでの研究は、主として移民が受け入れ国社会に包摂されない状況を人権問題として問題化したり、あるいは国民と移民の分業体制を搾取の問題として扱う理論の枠組みで説明することに力点が置かれてきた。

湾岸諸国は、アメリカ、EU に次ぐ世界第三の移民受け入れ地域であるが、世界の国際労働力移動の類型においては、非移住型と特徴づけられている以外に、理論的に十分モデル化されているとは言い難かった。

## 2. 研究の目的

本研究では、湾岸諸国に見られる国民と移民の消極的な社会関係の構築を、受け入れ国の国民と移民労働者の相互の主体的行為の結果として読み解くことを試みた。そのために、湾岸アラブ諸国の移民受け入れ政策に加え、中間層・底辺移民労働者や、移民との競合にさらされる国民といったエージェンシーの多様性にも注目した。このような個別の分析結果を統合し、湾岸諸国の移民社会のモデルを「新・複合社会 (Neo-Plural Society)」という概念で捉えることを目的とした。

## 3. 研究の方法

以下の5つのテーマについて、文献調査、フィールド調査(湾岸諸国、フィリピン、インド、シンガポール、ブルネイ)、国際ワークショップ(於:ブルネイ・ダルサラーム大学)等を行った。

- (1)湾岸諸国の移民受け入れ政策
- (2)国民と移民の社会関係、異なる国籍の移民どうしの社会関係
- (3)中間層の移民労働者によって受け入れ国で形成される異種混交社会の実態調査
- (4)移民労働者の生存戦略としての社会関係資本の形成プロセスの解明
- (5)湾岸諸国とシンガポール、ブルネイとの比較研究と「新・複合社会」概念の提唱

## 4. 研究成果

### (1)湾岸諸国の移民受け入れ政策

湾岸諸国の労働市場の特徴は、国民が公的部門、移民が民間部門に集中していることである。一方、6か国を比較すると、バハレーンとサウディアラビアの労働市場においては、公的部門が国民の労働力を吸収しきれず、一部の国民が民間部門で移民と競合する状況が発生していることが分かった。この状況に対し、バハレーンはあえて労働市場を流動化させることで国民と移民の競合を回避せず、それによって国民の競争力を高めるという政策に転換した。これに対して、サウディ

アラビアは民間部門に国民を雇うことを義務付けることで問題を解決しようとしていることが分かった。

### (2)国民と移民の社会関係、異なる国籍の移民どうしの社会関係

湾岸諸国は移民に市民権を付与することを制限しており、社会統合政策を実施しない。労働市場が国籍別に分割されているため、職場を超えた社会関係はほとんど形成されない。一方、イスラム教以外の宗教施設(キリスト教教会等)の設置や、移民の子どものための学校設立は認められている。

社会統合政策の不在は、移民のステータスを不安定なものにしている一方、移民がホスト社会から同化圧力を受けずに生活を営むことを可能にしていることが分かった。

### (3)中間層の移民労働者によって受け入れ国で形成される異種混交社会の実態調査

主に国民と移民、異なる国籍の移民の国際結婚、移民二世の子どもたちのアイデンティティや生存戦略に注目した。

移民への市民権付与を厳しく制限している湾岸アラブ諸国では、国民と結婚した移民はホスト社会と移民とのミドルマンとして社会的、経済的選択の幅を大きく広げる一方、父系社会であるホスト社会への統合は限定的である実態が浮かび上がった。異なる国籍の移民の国際結婚の場合もまた、子に望む教育環境や離職後の移動先の選択を含め、長期的な人生設計を立てることが困難であった。

湾岸諸国で育ったアジア系移民二世の子どもたちは市民権取得の見込みのない湾岸諸国も、治安や生活環境が悪く社会保障も十分整っていない親の出身国(国籍上の本国)も、自らの最終的な居場所とは考えられない。そのため彼らの教育やキャリアについての戦略は、第三国での将来的な居場所確保に向けて立てられることが分かった。

### (4)移民労働者の生存戦略としての社会関係資本の形成プロセスの解明

湾岸諸国において、劣悪な労働条件で働き、人権侵害をもっとも受けやすいのは、建設労働者や家事労働者などの底辺労働者である。彼/彼女らに対する公的な保護政策は十分ではない。一方、湾岸諸国ではNGOなどの移民支援の市民社会活動が制限されている。このような状況において、底辺労働者たちは、インフォーマルなネットワークを形成し、相互扶助を活発に行っていることが分かった。相互扶助のネットワークはアドホックには国籍を超える場合があることも理解された。

### (5)湾岸諸国とシンガポール、ブルネイとの比較研究と「新・複合社会」概念の提唱

湾岸諸国、シンガポール、ブルネイなどアジアにおける移民労働者の受け入れは、非移住型と特徴づけられている。こうした非移住型の移民労働者受入国においては、移民と国民の分業体制によって、社会関係が構築されにくい「新・複合社会」の特徴があることが分かった。一方、移民への市民権付与と社会

統合を認めている欧米やオーストラリア等においても、非熟練労働者への市民権付与は限定的であり、「新・複合社会」の現象が見られる。「新・複合社会」概念の普遍性については、さらなる検証が求められる。

#### 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計5件)

Watanabe, Akiko (2018) *Marrying Foreign Muslims in the Gulf States: A Preliminary Study on the Mixed-Marriage of Overseas Working Filipino Women.* 『文教大学国際学部紀要』 28 (2): 157-170. 査読無.

Asato, Wako (2017) *Welfare Regime and Labour Migration Policy for Elderly Care: New Phase of Social Development in Taiwan.* *Asia Pacific Journal of Social Work and Development* 27: 211-223. 査読有.

Matsuo, Masaki (2015) *Authoritarianism and Labor Market: Preference of Labor Policies.* *IDE Discussion Paper* (514): 1-26. 査読無.

堀抜功二(2015)「2022年FIFAワールドカップにゆれるカタル」『JIME 中東動向分析』 14(4): 1-18. 査読無.

堀抜功二(2014)「カタルの外交的孤立とGCC諸国関係の課題」『JIME 中東動向分析』 13(1): 1-13. 査読無.

[学会発表](計5件)

Matsuo, Masaki, and Masako Ishii, (2018) "Neo-Plural Society and International Migration," *The Global Refugee Crisis: Mobile People under State Protection or Exploitation?* International Symposium co-organized by Middle East Institute, National University of Singapore, Chiba University and JSPS, at National University of Singapore, Singapore.

Asato, Wako (2017) (invited) "Human Resource Development of Care Provider in Asia", 11th Asian Society Against Dementia (ASAD) organized by the Faculty of Medicine Siriraj Hospital, Mahidol University, Bangkok.

Hosoda, Naomi, and Kyoko Matsukawa, (2016) "Identity and Future Prospects among Second-Generation Asian Youth in the Arab Gulf States," *Asian Studies Conference Japan*, at International Christian University, Tokyo.

Watanabe, Akiko (2016) *Longtime Filipino Sojourners' Inter-marriage Dynamics in the Arab Gulf States*, Association of Asian Studies-in-Asia, Doshisha University, Kyoto.

Horinuki, Koji (2014) "Social Welfare and Housing Policy in the UAE: The Future

of Allocation States," *WOCMES at Middle East Technical University*, Ankara, Turkey.

[図書](計5件)

安里和晃 (編) (2018) 『国際移動と親密圏：ケア・結婚・セックス』京都大学出版会, 312 (1-9, 13-47).

錦田愛子 (編) 堀抜功二他 (著) (2016) 『移民/難民のシチズンシップ』有信堂高文社, 259 (106-127).

駒井洋 (監修) 佐々木てる (編) 石井由香他 (著) (2016) 『マルチ・エスニック・ジャパンーズ』明石書店, 256(70-85).

松尾昌樹、細田尚美他 (著) 松尾昌樹、岡野内正、吉川卓郎 (編) (2016) 『中東の新たな秩序(グローバル・サウスはいま第3巻)』ミネルヴァ書房, 344(1-14, 59-79, 221-223).

Watanabe, Akiko, and Naomi Hosoda, et al. (2015) *Southeast Asian Migration: People on the Move in Search of Work, Refuge and Belonging.* Sussex Academic Press, 256(92-113).

出願状況 (計 件)

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
出願年月日：  
国内外の別：

取得状況 (計 件)

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
取得年月日：  
国内外の別：

[その他]

ホームページ  
<http://www2.rikkyo.ac.jp/web/neops/outline.html>

#### 6. 研究組織

(1) 研究代表者

石井 正子 (ISHII, Masako)

立教大学・異文化コミュニケーション学部・教授

研究者番号：40353453

(2) 研究分担者

松川 恭子 (MATSUKAWA, Kyoko)

甲南大学・文学部・教授  
研究者番号：00379223

安里 和晃 (ASATO, Wako)  
京都大学・文学研究科・特定准教授  
研究者番号：00465957

松尾 昌樹 (MATSUO, Masaki)  
宇都宮大学・国際学部・准教授  
研究者番号：10396616

細田 尚美 (HOSODA, Naomi)  
京都大学・アジア・アフリカ地域研究研究  
科・助教  
研究者番号：70452290

渡邊 暁子 (WATANABE, Akiko)  
文教大学・国際学部・講師  
研究者番号：70553684

石井 由香 (ISHII, Yuka)  
静岡県立大学・国際関係学部・教授  
研究者番号：20319487

(3)連携研究者  
なし

(4)研究協力者  
堀抜功二 (HORINUKI, Koji)  
一般財団法人日本エネルギー経済研究所・中  
東研究センター・主任研究員